

環境教育「まず、今できることから」

発行所:地域環境活性化協議会
 編集者:代表幹事 高橋 賢一
 連絡先:市民活動支援センター
 尾張旭市波川町三丁目5番地7
 (波川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878



日本PTA全国協議会の小学五年生と、中学三年生の調査など、いじめも約五割が平日でも約五割三分が空時間で遊ぶ休日には三時間以上を費やす子が一割を超えた。子どものゲーム依存の悪影響が心配される中、三十二年度の男女五千人の子どもの時代を調べた。子どもの体験活動の実態に関する調査研究と報告は興味深い。

▲いかに楽しくするか!!
これが秘訣です。

平成二十三年七月五日(土) 猛暑の中、平子児童館に見学に来た多くの生徒も参加体力向上のため年々増加は止めた。あくまでも自分力で大皿皿の中皿へと進む段階が子供達達にはよって考える力が育む力となって頭脳を研ぐのである。

平子児童館でけん玉練習。

遊ぶの力を見直そう!!
 海川で貝採りや魚釣り水泳をこぞして自然を満喫する。隠れん坊や缶作り、けん玉、時にはけんかしながら友だちと遊ぶ回る。
 子どものころのそんな外遊びの体験が豊富に人ほど、物事への関心や意欲が強いことが分かった。遊びの粗点ばかりの子どもの教育をとらえる研究をもと深めていくことも大切だ。



子ども時代に自然に触れたり、むかし遊びを友だちとこぞ遊んだりした大人は、子どもが遊ぶ機会が少なくなっている。国立青年教育振興機構の調査研究で、そんな傾向が浮かんできた。遊びの力を見直す契機としたい。

ゲーム依存。電車や路上で室内で電子ゲームに興じる子どもが増えている。今やゲーム機は子どもにとって生活必需品のまわりを存在だ。



◀もう少しいのりませう!!

▼大皿につたよ!!笑顔々。



◀新しいカードをつくらせてシールを貼るよ。

